

AI導入の背景：視覚的・感覚的評価への挑戦

テキスト検索の限界



キーワード・分類コード



視覚的特徴（曲線、素材感）
を網羅できない

爆発的なデータ量とグローバル化

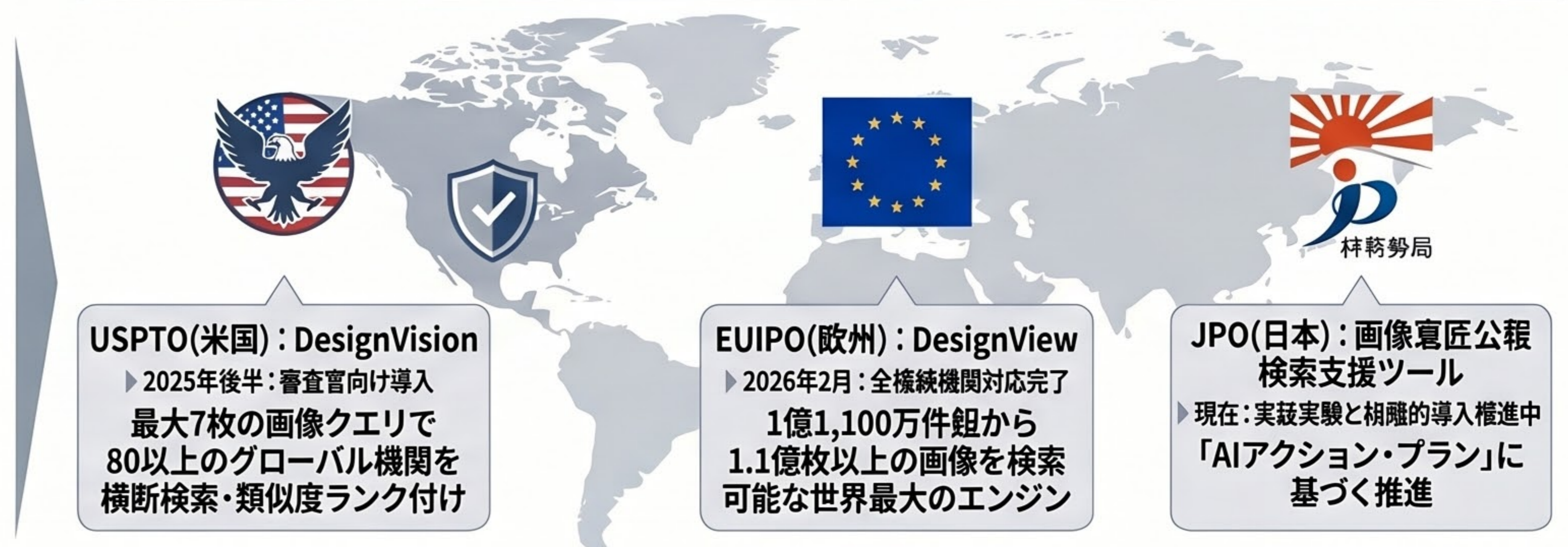


1億1,100万件超の画像
(EUIPO DesignView, 2026.2)



グローバル調査の複雑化：
各国のDB・分類体系横断の負担増

主要IPオフィスのAI導入動向：2026年へのロードマップ



主要IPオフィスのAI導入動向：2026年へのロードマップ

実務におけるリスクと法的課題



ハルシネーションと誤検知
存在しない特許番号の提示や類似意匠の見落とし
(False Negative)



法的基準との乖離とブラックボックス性
視覚的類似度は算出できるが、要部観察や通帯の観察者
テストといった法的基準の直接判断・視認説明は困難



先回り大量生成問題
類似デザインの安価な大量生成・出願による真の創作
活動阻害、新規性喪失例外規定の見直し議論

リスク・課題と未来の専門家の役割：人間×AI協働モデルへの転換

類似性をの基金



ベクトル埋め込み
(Vector Embedding)



画像を数値化し、
類似・構性を定量化



線画・多視点画に
特化した意匠
専用AIフレームワーク

2026年以降の『専門家』に求められる役割



人間×AIの協働モデルの確立
AI:初期スクリーニング(絞り込み)担当 /
人間:法的評価、戦略的判断、クライアント説明を担当



防衛的ポートフォリオの構築
関連意匠制度を戦略的に活用し、自社デザイン
のバリエーションを網羅的に保護

先行意匠調査：実用段階(課題：データカバー率不均一、線画対応)

類似性判断：研究・実証段階(課題：法的基準乖離、説明可能性欠如)

法制度対応：議論・改正検討段階(課題：先回り大量生成、創作者認定)